



光に寄せられる飛来侵入虫対策

ことしはいよいよ夏本番、毎日暑くて大変ですね。人も虫も夏バテ気味(?)のものもいるかもしれませんが、元気を出していきましょう!

さて、光に寄ってくる虫対策に苦慮されている方も多いですが、なぜ虫は光に集まるのでしょうか?

諸説ある中の一つが「背光反射」です。虫は地球が中心に引っ張る「重力」と、太陽や月から降り注ぐ上からの「光」を利用して上下を認識します。虫の光を感知する目は上向きで、常に背中側に光が来るようにすれば上下を間違わなくて済みます。ところが、

灯具が強い光を発すると、それにつられて背中を向けるように近づいてしまいます。遠くから一定の光を出す太陽や月ならば近づきませんが、灯具はすぐそばにあるため影響を大きく受けて引き寄せられ、くるくる回りを飛ぶばかりで離れられなくなってしまいます。

防虫対策では従来からこうして虫が光(紫外線など)に集まる性質を逆に利用する「ライトコントロール」という手法がありました(商品例:紫外線カットフィルムや防虫蛍光灯など)。近年ではそもそも紫外線がでないLED灯具が普及しているのも対策の一つとなっています。さらにライトコントロールには、人の目には青っぽく見える、紫外線を多く放つ捕虫器に虫をより集める相乗効果も期待できます。



新型誘虫LEDオプトリウム

外から入ってくる虫に対しては、間口や窓など必要時には開放せざるをえないドアやシャッターが泣き所になっていますが、ココをカバーできる商品が増えました。その名も「オプトリウム」。これは屋外に設置する紫外線のスポットライトです。ドアやシャッターなどわずかに漏れた光などに誘引されそうな虫を、離れたところからより強い光で照射することで屋内に向かわせないようにする、という新たな視点の商品です。

われわれPCOでも「ライトコントロール」という言い方は長く使われていますが、環境によって方法の組み合わせは異なります。さらに新たな方法や考え方に沿って、防虫対策も進化しています。新商品「オプトリウム」以外にもご興味があればご相談ください。

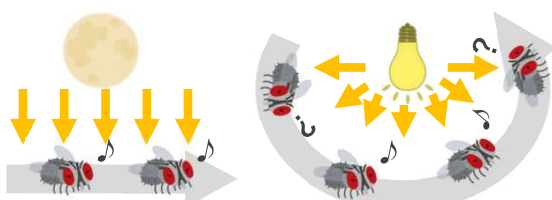


図: 光に背を向ける「背光反射」イメージ

今月の
豆知識

おうちの中の害虫ハンター、アダンソンハエトリ

おうちの中の壁や床でぴょこぴょこ跳ねる、全身黒で、白い筋の入ったクモに見覚えはありますか?

きっとそれはアダンソンハエトリのオスです。その不思議な名前はフランスの博物学者のミシェル・アダンソン氏にちなんでつけられたものです。

このクモは日本全国(世界にも)に広く分布する仲間、外だけでなく、おうちの中にもやってきます。いわゆる巣は張らず、動く獲物を追いかけて生活しており、一日に自分の体重の10分の1くらいの虫を狩るといわれます。特徴は頭大きな2つの目。8個の目のうち2つは前向きで、これで狙いを定めて獲物にとびかかります。いろいろなところで獲物を追いかけることから、農業分野でも注目されています。

雄雌ともに5~10mmくらいで、見た目はオスは特徴的、メスは少し地味な模様をしています。ハエトリグモの仲間のオスはメスの前でその派手な模様を見せびらかし、情熱的な求愛ダンスを踊ることが知られています。メスの気を引くために右へ左へぴょこぴょこ一生懸命踊ります。しかし、メスに気に入られないモテないオスは、その場で食べられてしまうこともあります。

おうちの中で知らないうちに害虫駆除をしてくれる情熱的なハンター。人に危害を加えることはないので応援して見守ってあげてください。



アダンソンハエトリ雄